

障がい者（児）、そして家族とヘルパーが共に幸せを感じる介護を



株式会社 ノーサイド ノーサイド介護支援センター

〒577-0067
大阪府東大阪市高井田西 6-1-9 208
TEL 06-4308-1515 / FAX 06-4308-8181
URL <http://www.no-side-kaigo.com>

Company data

代表取締役

中西 良介

高校時代に親しんだラグビーを25歳で再開。それを機にヘルパーの資格を取得して転職、福祉の世界へ。2011年9月に（株）ノーサイドを設立し、障がい者（児）を対象としたノーサイド介護支援センターを開所する。

Personal data



麻倉 代表の人生にラグビーは関わりが深いそうですね。

中西 高校生の頃に友人に誘われ、ラグビーを経験。その後一度は離れていたのですが、25歳で改めてラグビーを始めると人との関わりを再認識させられ、「人、そして社会のために何かしたい」という意識が芽生えました。

麻倉 人生の節目になったのですね。

中西 はい、そして26歳から主に障がい者（児）の分野でヘルパーの仕事を始めました。私は元気で何にでも積極的に取り組む性格なので、次第に「もっとヘルパーとして色々なことをしたい」と思うようになり、独立に至ったのです。

麻倉 社名の由来はラグビーですか？

中西 ノーサイドと言えば、ラグビーでは「試合終了」の意味。敵・味方の境界線がなくなり、お互いを称え合うことができる瞬間です。それは介護の世界でも同じ——。ヘルパーを利用する方を幸せに、そして介護する方も幸せに——、共に幸せを感じ、称え合いながら歩んでいこうという想いで名付けました。

麻倉 障がい者（児）サポートは、当人だけでなく家族さんの支えも当然必要になりますよね。

中西 はい、障がいがある子どもさんがいる家庭の思い入れは特に強く、繊細な

部分もあるので、「一緒にやっていきましょう」という姿勢がとても大切です。

麻倉 そういったスタンスが家族さんたちの心の余裕に繋がりますよね。

中西 私たちヘルパーは、ゆとりの時間を作ることが大切なんです。利用者さんに喜んで頂くのは当然、それプラス家族さんにゆとりの時間を持ってもらう——例えばコーヒーを1杯飲む時間でもいいんです。手軽に声をかけられる近所のお兄ちゃんのような関係が理想です。家族さんに“ゆとり”ができるだけで家族関係は良好、円満になるもの。私たちが生活の歯車となり、少しある隙間を埋める潤滑油として家族さんたちにより過ごしやすい環境をつくりだす——。それが私たちの一番のやりがいになっています。

麻倉 ご相談も多いのではないですか。

中西 そうですね。ただ、障がい者（児）サポートを手がけるヘルパーも事業所も少ないのが現状です。

麻倉 その点は社会制度の課題ですね。

中西 ヘルパーの資格を持っていても実際に実務に携わる人が少ないんです。人との繋がりが強い仕事なのでやりがいは感じられますが、気持ちとやりがいがあってもお金が稼げなければ仕事は続けられません。そのあたりを配慮して仕事を段取りするのも経営者の仕事です。

麻倉 では最後に今後の目標を——。

中西 私の地元である東大阪市の「障がい者（児）サポートは気軽に利用できるもの」という意識を根づかせたいと考えています。長い年月がかかるとは思いますが、「家族さんだけが悩まなくていい」という認識を広めていきたいですね。

Guest Comment

麻倉 未稀（歌手）

とてもパワフルな中西社長。利用者さんだけでなく、地域全体の障がい者（児）とその親を思う気持ちにあふれており、法律や既成概念といった枠に、持てるエネルギーが収まりきらない印象を受けました。いつか地域改善の夢が叶いますよう応援させていただきます。

